



関西学院初等部だより

三日月 PLUS

幼子はたくましく育ち、知恵に満ち、神の恵みに包まれていた。(ルカによる福音書 2 章 40 節)

CCT 3つのコミュニケーション

Mastery for Service を唱えたベーツ先生の故国を訪ねる カナダ・コミュニケーション・ツアー (CCT) を終え、6 年生が元気に帰国しました。90 名全員が参加し、大きな病気も事故もなく無事に帰ってきたことは何よりも嬉しいことです。期間中、無事を祈って待っていてくださった保護者の皆様に心から感謝しています。

CCTでは、カナダの多様な文化や生活を学び異文化理解を深めるとともにカナダの大自然を体験することができますが、単にカナダツアーではなく、「カナダ・コミュニケーション・ツアー」だということに大きな意味を持っています。もう一つの大きなねらいは、「英語を使ってコミュニケーションを図り、人々との交流を深める。」ことです。そのため、CCTでは主に三つのコミュニケーションの場を設定しています

まず、一つ目はカルチュラル・アシスタント (CA) との交流です。子どもたちが現地でグループ活動をする際、各グループ 6 名に一人ずつ CA がつき、2 日間、行動を共にします。今年はブリティッシュ・コロンビア大学での活動や大きな吊り橋のある森の中での

スタンプラリー、また、バンクーバー市内の名所を公共交通機関で巡るツアーを行いました。CA は英語しか話しません。子どもたちは話したいことや尋ねたいことは、英語で表現しなくてはならないので、表情・ジェスチャーも使って何とか伝えようとします。

二つ目は姉妹校ホーリーバーン小学校との交流です。歓迎会では、自分たちでアイデアを出し一生懸命に練習を重ねた「Amazing Japan」のプレゼンテーションと歌唱を披露し、称賛されました。また、様々な学年に入り、授業にも参加しました。高学年の授業に臨む真剣な眼差し、低学年の授業で児童に優しく接する姿は初等部での様子と同じでした。ホーリーバーン生と共に昼食をとり遊んだり近くの海辺の公園に出かけたりするうちに、片言で言葉を交わし始め、そのうち気持ちが通じ合い、明るい表情や笑顔がこぼれるようになります。多くの児童や先生方と過ごし、充実した一日でした。

三つ目の交流の場は 3 泊のホームステイです。最初の 2 日間は午前・午後の活動を終えてからホストファミリーのお宅に向かいますが、3 日目は終日ホストファミリーと過ごします。初日の対面の間では緊張した面持ちの子も多かったのですが、家族のように過ごさせていただき、最終日には長い間

別れを惜しむ姿も見られました。

児童はカナダで素晴らしい体験をし多くの方々とふれあうことができました。「相手が話していることは全部わかるのに、言いたいことが言えない。」と残念がる子もいれば、「練習した英語がちゃんと伝わった！」と嬉しそうに話す子もいます。「笑顔で話したら、たくさん話ができた。」「わからない単語も多かったけど、何となくわかって全然困らなかった。」と、子どもたちは英語が上手く話せなくても『何とか伝えたい。相手の話していることを理解したい』という気持ちがあれば思いは必ず伝わるということを学ぶことができました。

CCTを終えた今、児童は自分の意志や考えを英語でもっと伝えたいという思いをもっています。カナダの人々との交流という貴重な体験を通してさらなる学習意欲を高め、自らの意欲による継続した英語学習に取り組んでいけるようにと考えています。

CCTの意義を理解し子どもたちを送り出してくれた保護者の方々はもちろん、関学同窓会バンクーバー支部のみなさんをはじめCCTを支えてくださった方々への感謝の気持ちを忘れることなく、子どもたちがこの体験をいかして大きく成長すること心から願っています。

(CCT担当 植松)